

短期戦略α | 2026年10月14日 8:00

工程1 | 分析・前回検証・ニュース・戦略確定

現在価格（BID）

158.34円

暫定相場判断

戻り売り優先

158.75円から157.83円への下落後、158.46円まで反発しましたが、現在は158.31円前後で持ち合っています。4時間足には上昇構造が残るものの、主判断の1時間足では戻りが158.40円台で止められており、買いへの復帰はまだ確認できません。

1. データ整合性

項目	検証結果
M15 CSV	正常に読み込み
H1 CSV	正常に読み込み
H4 CSV	正常に読み込み
指定BID	158.340円
15分足・8:00行	158.342円
1時間足・8:00行	158.341円
4時間足・8:00行	158.342円
7:45確定15分足終値	158.341円
7:00確定1時間足終値	158.341円
4:00確定4時間足終値	158.341円
基準時刻後のデータ	なし

入力現在価格と直近データの差は0.001～0.002円で、約0.1～0.2pips。勝手な数値補正はしていません。

8:00行は形成中の足として扱い、売買条件の成立判定には使いません。H1 CSVから再構成した4時間足も、提供されたH4 CSVと整合しています。

ATR14（チャート表示値）

- 4時間足：約0.26円（26pips）
- 1時間足：約0.11円（11pips）

- 15分足：約0.04円（4pips）

昨日の急落によって1時間足と15分足の値幅が拡大しました。その後は落ち着きつつありますが、急変前の低ボラティリティに完全に戻ったわけではありません。

2. 前回戦略の検証

対象：10月13日20:00のAIトレード会議で確定した戦略

前回の主戦略は、158.15～158.22円への戻りを待ってから売るものでした。

項目	前回確定値
方向	売り優先
監視帯	158.15～158.22
代表売り	158.11
損切り	158.24
第一利確	157.97
第二利確	157.85
欲張り利確	157.75

実際の値動き

20:00の15分足は158.05円まで下げましたが、そこから反発して21:45には158.17円付近まで回復しました。

監視帯には到達したものの、指定していた「上昇失速→次足の安値割れ」は確認できず、22:00には158.29円まで上昇しています。

22:30には158.36円、22:45には158.39円へ到達し、日付が変わった0:00には158.46円まで反発しました。

その後は再び158.31円付近へ下落し、今朝7:00の15分足では158.28円まで売られた後に買い戻されています。

戦略の成立判定

主戦略：158.11円売り

不成立

158.15～158.22円への戻りは発生しましたが、15分足の売り確認条件がそろわず、主戦略はノーエントリーです。

売り戦略破棄

成立

158.22円を上抜けた後に158.31円を回復し、一定時間維持しました。

買い転換分岐

確認条件を満たさず

158.31円回復後に158.30～158.33円で明確な押し目支持を確認し、続けて再上昇するという条件が、代表158.34円買いを実行できる形ではそろいませんでした。

前回利確の達成

対象外

主戦略も買い分岐も、エントリー成立を確認できませんでした。

総合判定：主戦略は未成立。売り方向への継続よりも買い戻しが優勢となり、主戦略破棄条件が成立。実行条件の厳格な適用ではノーエントリー。

方向変更への対応は必要でしたが、上抜けた瞬間の買いを成功として後付け評価することはしません。

3. ニュース・重要イベント

10月14日8:00 JSTまでに確認できた情報のみ採用

ドルを支えていた材料が、13日には逆方向へ動いた

10月13日のReutersによると、ドルは18か月ぶりの高値圏から下落しました。

原油価格の反落によって米国のインフレ警戒がやや和らぎ、米国債利回りも低下。ニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁が、2026年中の追加利上げを見込みながらも、2027年には追加引き締めを必要としないとの見通しを示したことも、ドルを圧迫する材料となりました。

 reuters.com +1

先週は原油高と米金利上昇がドルを支えていましたが、昨日はその一部が反転したことになります。

フランス財政不安は残るが、ユーロ売りは一服

フランスの財政不安は依然として解消していません。フランス国債とドイツ国債の利回り差は引き続き市場の警戒材料です。

しかし13日には両国の国債利回りが低下し、フランス市場に対する過度な警戒もやや和らぎました。EURUSDは1.1198ドル付近まで回復しています。

 wsj.com +1

これまでの「欧州不安→ユーロ売り→相対的なドル買い」という経路が弱まったことで、ドル円を支えていた間接的な材料にも変化が出ています。

原油反落と地政学リスクのねじれ

13日のブレント原油は105.69ドルで終了しました。米口間の軽油供給に関する動きが供給懸念を緩和する一方、中東のエネルギー施設や輸送路をめぐる緊張は残っています。

 reuters.com

原油反落は米国のインフレ懸念を和らげ、ドル売りにつながりやすい材料です。ただし、中東情勢が再び悪化すれば原油高と安全資産需要が強まる可能性もあり、ドル安一方向に整理できる状況ではありません。

また、AI関連株の先行きに対する懸念から世界の株式市場が軟調となり、リスク回避も意識されました。

 reuters.com

日銀の追加利上げ観測

13日に公表された日本の9月企業物価指数は前年同月比6.8%上昇。前月の7.6%から鈍化しましたが、物価上昇圧力はなお強い水準です。

円安による輸入物価の上昇も続いており、日銀の追加利上げ観測が円を支える材料となっています。

 reuters.com

IMFも日本の政策金利が段階的に中立水準へ向かうとの見通しを示しています。

 reuters.com

ニュース総合判断

昨日のドル円急落には、次の材料が重なっています。

- 原油反落と米金利低下によるドル買い圧力の後退
- フランス財政懸念の一服とEURUSDの回復
- 日本の物価上昇を背景とした日銀追加利上げ観測
- 株式市場の不安定化とリスク回避

複数の要因がドル安・円高方向へ作用した可能性があり、昨日の急落と整合する内容です。ただし、157.83円まで下落した直接の原因を一つに特定することはできません。

本日夜の米CPIによって、再び米金利とドルの方向が変化する可能性があります。

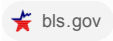
重要イベント

10月14日（水） 21:30 JST

米9月消費者物価指数（CPI）

最重要

米労働統計局の公式発表予定。結果は本日8:00時点では未公表です。



10月15日（木） 21:30 JST

米9月生産者物価指数（PPI） など

10月16日（金） 21:30 JST

米輸入・輸出物価指数

CPIの30分以内は新規エントリーを原則見送り、発表直後の大きな値動きにも飛び乗りません。

4. 4時間足分析

上昇の形は残るが、158.31円へ引き戻された

10月12日に158.31円を突破し、13日には158.75円まで上昇したドル円ですが、昨日夕方の急落で一時157.83円まで押し戻されました。

4時間足では上昇してきた値幅の多くを失ったものの、157円台後半で下げ止まり、その後158.46円まで反発しています。

その結果、現在は再び4時間足フィボ50%の158.31円付近です。

指標	価格
EMA8	158.34
EMA21	158.31
SMA50	158.15
SMA75	157.93
SMA200	157.00

短期EMA周辺まで価格が戻り、SMA50などの中長期移動平均線は下に控えています。上位構造が完全に下落へ転換したとは判断できません。

ただし、158.75円からの急落は上昇の勢いを明確に削ぎました。

4時間足判断：上昇構造は残存。しかし158.31円付近で再び方向を探る局面。

5. 1時間足分析

反発は158.46円で止まり、上値が重くなった

13日午前から始まった下落は、夕方に加速して157.83円へ到達しました。

その後の買い戻しは強く、22:00の1時間足では158.39円まで回復。14日0:00には158.46円まで上昇しました。

ただし、そこから158.46円を突破できず、今朝3:00には158.26円まで再下落しています。

この動きによって、1時間足では158.46円付近が戻り高値となり、158.38～158.46円に売りが待つ形です。

指標	価格
EMA8	158.32
EMA21	158.32
SMA50	158.38
SMA75	158.31
SMA200	158.13

現在価格158.34円はEMA8・EMA21付近ですが、SMA50は158.38円で上値を抑える位置にあります。

下値では158.28～158.30円が何度も試されており、ここを割り込んでも売りが続かなければ、再び158.40円台へ戻る可能性があります。

1時間足判断：短期は戻り売り優先。158.38～158.46円を回復・定着できれば売り優先を見直す。

6. 15分足分析

158.31円を挟んで、買い手も売り手も決め手を欠く

昨夜22時以降の急反発で158.40円台へ戻したドル円は、深夜に158.46円を付けた後、上値を伸ばせなくなりました。

その後は158.25～158.40円台で上下し、今朝は158.31円前後で小さなローソク足が続いています。

一時158.28円まで下落しても買い戻される一方、158.35～158.36円へ上昇しても伸びが続いていません。

15分足の移動平均線は次の位置です。

- EMA8：158.34円
- EMA21：158.33円
- SMA50：158.31円
- SMA75：158.26円
- SMA200：158.38円

158.31円付近には複数の移動平均線が重なり、さらに上にはSMA200があります。

現在の15分足だけを見ると、買い・売りどちらもまだ再加速していません。

15分足判断：158.38円付近への戻り失敗を待つ。158.31円割れだけで追いつきしない。

7. 主戦略 | 158.38～158.42円への戻り売り

売り優先・反発待ち

現在の158.34円から直ちに売るのではなく、上値の抵抗が集まる158.38～158.42円への戻りを待ちます。

ここには1時間足SMA50、15分足SMA200、昨夜からの持ち合い上限が重なります。

監視帯	方向
158.38～158.42円	売り
代表エントリー	ポジション損切り
158.34円	158.48円

15分足で必要な反応

158.38～158.42円へ戻す → 高値更新失敗や上ヒゲ、実体縮小などで失速 → 15分足終値で158.35円以下へ戻る → 次の足が確認足の安値を更新する。

代表158.34円を入れる価格が残っている場合のみ実行します。

主戦略破棄

1時間足終値で158.46円を上抜き、その後の15分足でも158.38～158.42円が支持として維持される場合。

第一利確	第二利確	拡張利確
158.20円	158.11円	157.85円

追いかけて禁止・見送り

- 監視帯へ戻らず158.31円を割り込んだ場合は追いつきしない。
- 失速確認が成立しても158.29円以下まで下げていけば見送り。
- 158.38～158.42円を突破し、買いの勢いが続く場合は売らない。
- CPI発表前後の急変や、確認条件を満たさない小さな持ち合いではエントリーしない。

リスクリワード

代表158.34円売り、損切り158.48円、リスク14pips。

利確	利益幅	RR
第一158.20	14pips	1 : 1.00
第二158.11	23pips	1 : 1.64
拡張157.85	49pips	1 : 3.50

損切り14pipsは1時間足ATR約11pipsの約1.3倍です。

第一利確158.20円は直近下落で意識された価格帯、第二158.11円は1時間足SMA200に近い支持候補、拡張157.85円は昨日の実際の急落安値圏を目標としています。

8. 損切り・主戦略破棄後の分岐

① ポジション損切り158.48円到達後

損切りに到達しても、1時間足で158.46円上抜けが確定していなければ、主戦略の破棄とは分けて判断します。

ただし、158.48円まで上昇した後に再び売りを狙う場合は、新しい戻り高値と失速の確認が必要です。同じ価格・損切り設定を使い回した再売りは行いません。

② 主戦略が破棄された場合

1時間足終値で158.46円を上抜き、その後も158.38～158.42円を支持として維持できれば、売り優先を終了します。

その場合の買い転換候補は以下です。

方向：条件付き買い

監視帯：158.40～158.46円

15分足確認：158.46円突破 → 押しで158.40～158.42円を維持 → 再び高値更新

代表買い候補：158.45円

ポジション損切り候補：158.29円

買い戦略破棄：158.40円台の支持形成に失敗し、1時間足で再び158.31円を割り込む場合

第一利確候補：158.60円

第二利確候補：158.75円

拡張利確候補：158.85円

RR：第一1 : 0.94／第二1 : 1.88／拡張1 : 2.50

158.46円を上抜けた瞬間には買いません。上抜け後の押しが支持へ変わったことを確認し、代表158.45円付近が残っている場合だけ実行します。

9. 拡張利確157.85円到達後の分岐

157.85円は13日の急落で確認された実際の安値圏です。

ここまで下落した場合、主戦略の売りはいったん終了し、157.85円周辺で買い戻しが出るかを再評価します。

次の売りへの移行条件

- 方向：売り継続を第一候補として再評価
- 監視帯：157.85円到達後、新しい戻り高値が形成された場所
- 15分足確認：下落後に戻り形成 → 上昇失敗 → 再下落
- 代表エントリー：未設定
- ポジション損切り：新しい戻り高値を確認後に設定
- 主戦略破棄：新しい売り条件が成立せず、上昇が継続する場合
- 第一・第二・拡張利確：到達後に再評価
- リスクリワード：未算出

157.85円へ到達しただけでは追加の売りを行いません。支持を割り込んだあとでも、実際に戻り売りの形ができることを待ちます。

10. Googleシート記録

🟢 記録完了

短期戦略α 検証記録シート ➡

「検証記録」に以下を追加しました。

- No.79：10月13日20:00戦略の検証
- No.80：10月14日8:00新規戦略

実際の取引・約定情報は未確認のため、実トレード損益は記録していません。

工程1 | 最終戦略確定

2026年10月14日 8:00		戻り売り優先	
現在BID		監視帯	
158.34円		158.38～158.42円	
代表売り		損切り	

158.34円

158.48円

第一利確

158.20円

第二利確

158.11円

拡張利確

157.85円

戦略破棄： 1時間足終値158.46円上抜けと、15分足での158.38～158.42円の支持維持。

買い転換： 条件成立後、158.40～158.46円への押しと再上昇を確認。

昨日と今日の大きな違いは、158.75円への上昇期待から、**158.31円を挟んで再び売り手と買い手が争う状態へ戻ったこと**です。

4時間足の上昇構造は残っています。しかし、1時間足では158.46円までの反発が止められたため、今回は戻り売りを優先します。

本日21:30には米CPIが控えています。発表まで現在の持ち合いが続く可能性もありますが、結果を予測して方向を決めることはしません。

工程1は完了です。

事前に確定した冒頭と「モルアウナのささやき」は、工程2へそのまま引き継ぎます。記事化では、昨日確認した方針どおり、重複を抑えた読みやすい分量に編集します。